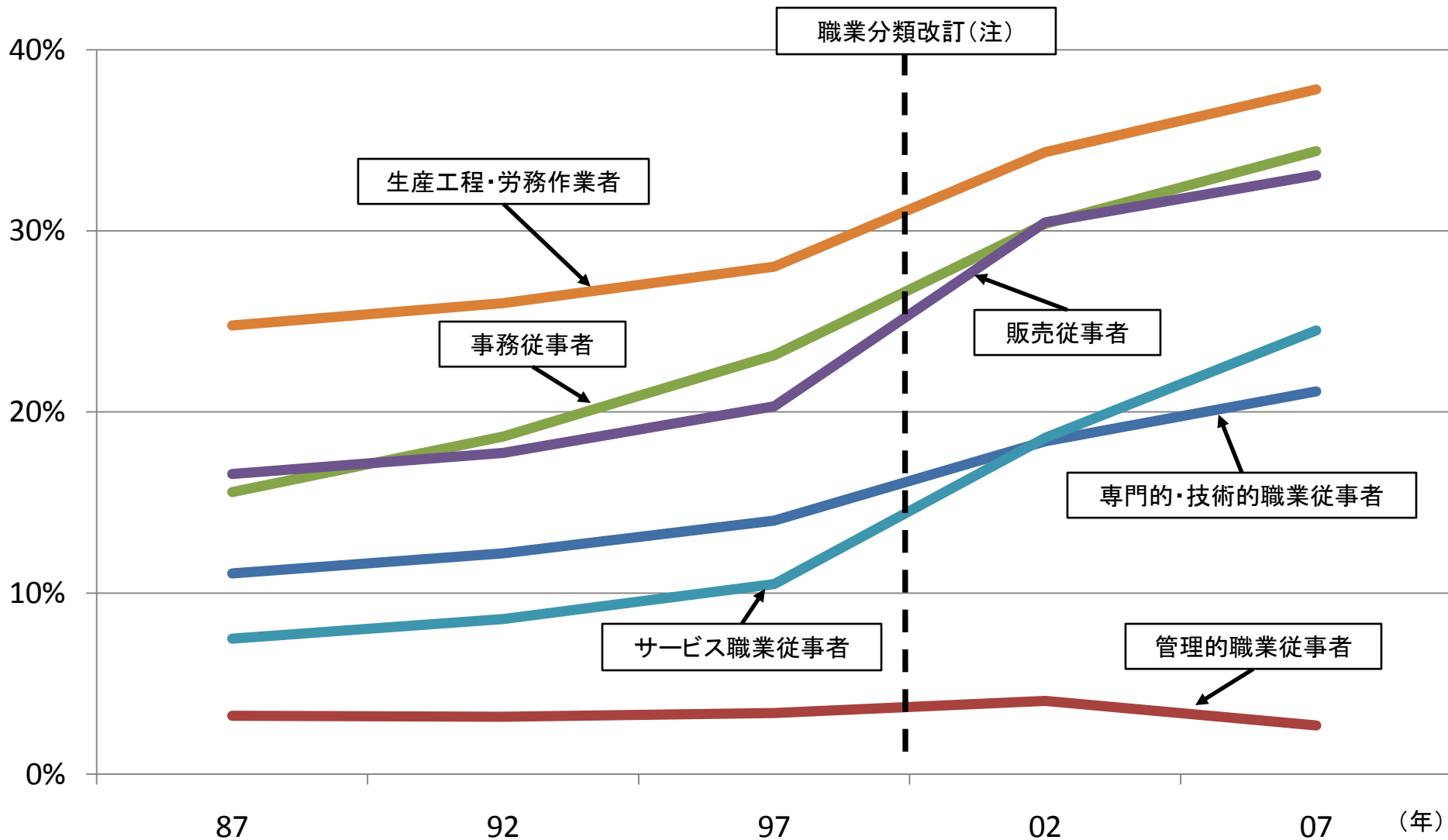


# 職業別非正規労働者割合の推移

○ 非正規労働者の割合は管理的職業従事者を除く各職業で上昇傾向にある。



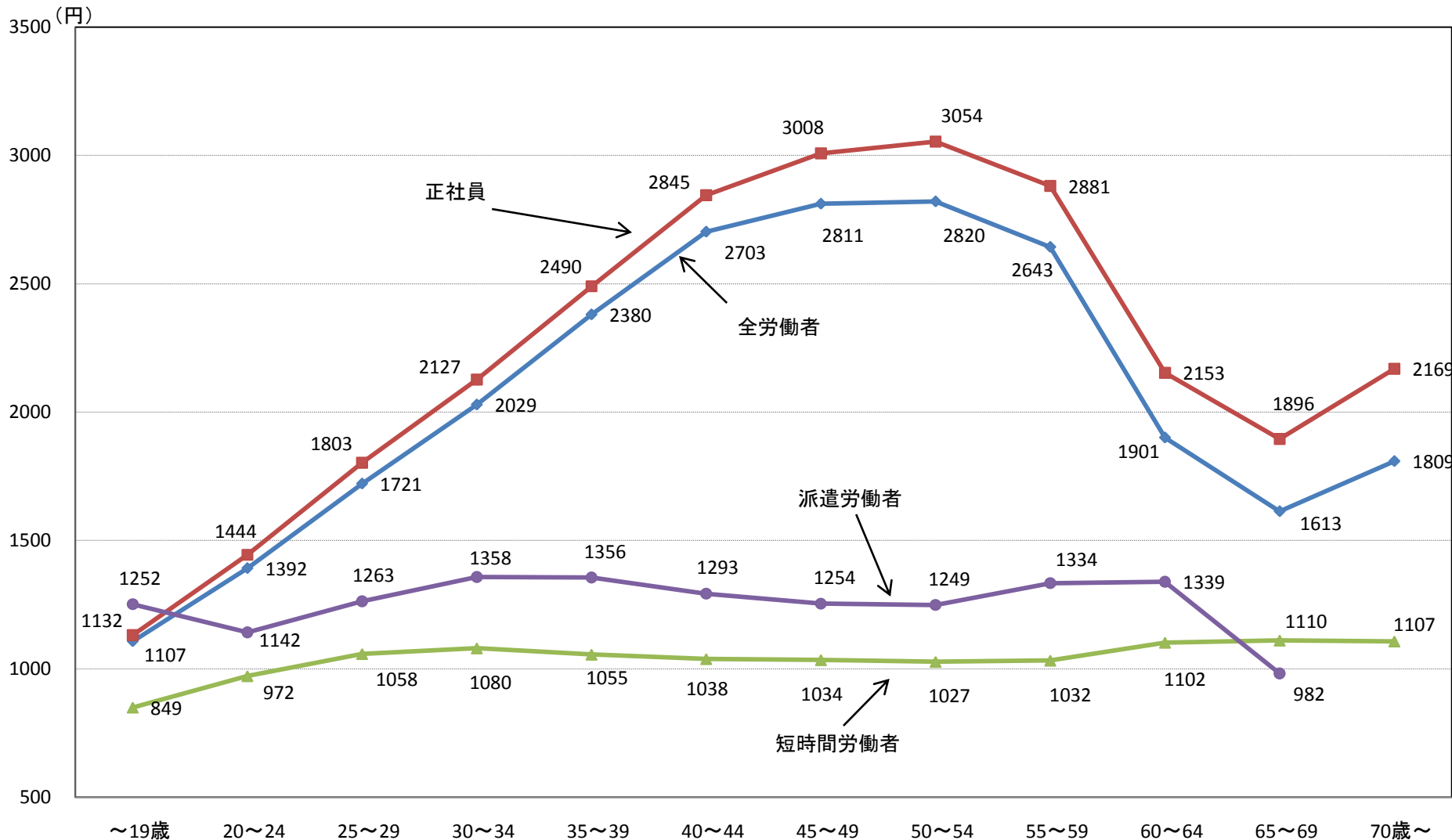
(資料出所) 総務省「就業構造基本調査」

注) 1999年の職業分類の改訂により、1997年以前と2002年以降は単純に比較できないことに留意。

職業分類名は改訂後の名称で記載。

# 年齢別の賃金カーブ(時給ベース)

○ 非正規雇用者の給与は、ほぼ全ての世代で正社員の給与を下回っており、年齢による変化も少ない。



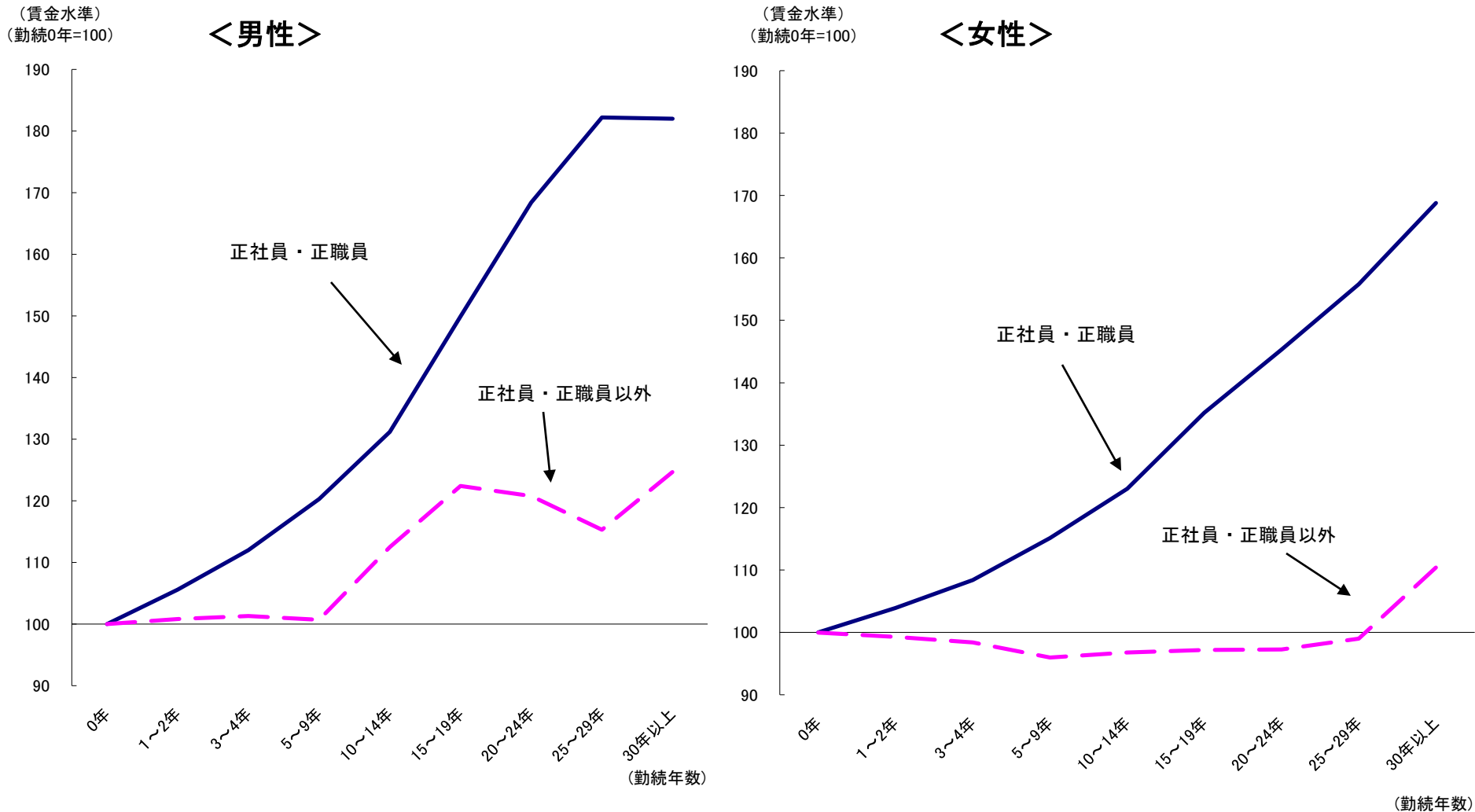
(資料出所) : 全労働者(派遣含む)、正社員、短時間労働者については、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(2008)

派遣労働者については、厚生労働省「派遣労働者実態調査」(2008)

(注) 派遣労働者について、年齢区分「65歳以上」を「65～69」に計上。

# 雇用形態別・勤続年数別賃金カーブ

○ 正社員・正職員以外の者は、男女とも勤続年数が長くなるにつれ、正社員・正職員との賃金の格差が広がっており、特に女性は傾斜がほとんどみられない。

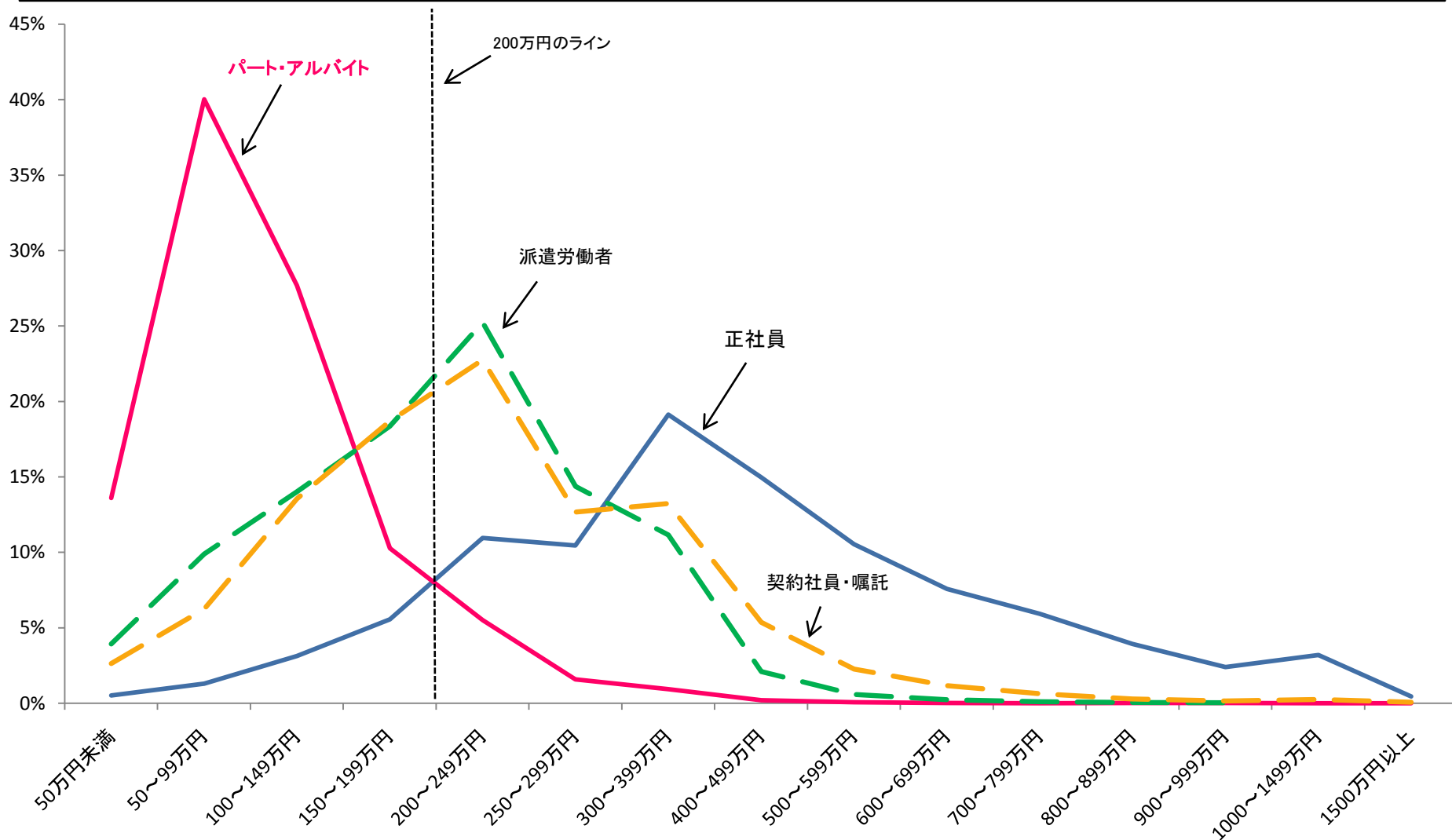


(資料出所) 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(2008)、厚生労働省「労働経済の分析(2007)」

(注) 所定内給与についてみている。

# 雇用形態別年間所得の分布

○ 非正規雇用者は、正社員よりも年間所得の分布のピークが低い位置にあり、特にパート・アルバイトの約9割は年間所得200万円未満となっている。



(資料出所) 総務省「就業構造基本調査」(2007)

(注) 全労働者を対象としている。所得については、本業から通常得ている年間所得(税込み額)をいう。過去1年間に仕事を変えた者や新たに仕事に就いた者については、新たに仕事に就いたときから現在までの収入を基に、1年間働いた場合の収入額の見積りによる。

# 就業形態別自分自身の収入で生活をまかなう労働者の割合の推移

○ 派遣労働者、臨時的雇用者のうち、自分自身の収入で生活をまかなう労働者の割合は上昇している。



(資料出所) 厚生労働省「就業形態の多様化に関する総合実態調査」(2003, 2007)

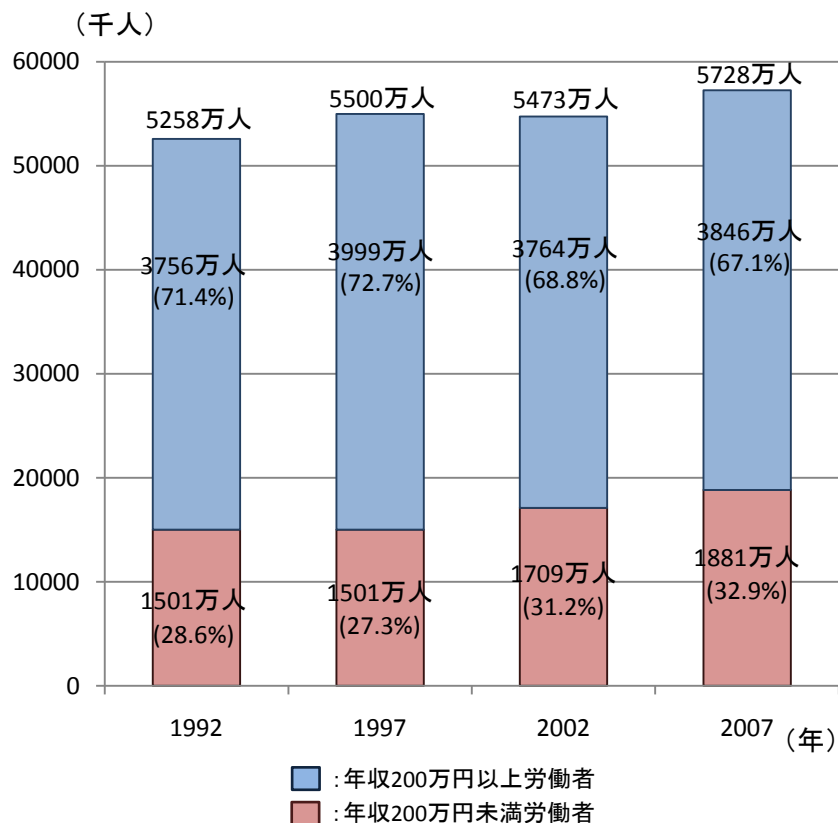
注) 質問内容は「あなたの生活は主に何によっていますか。該当するものを1つ選んで下さい。」

選択肢には自分自身のほか、配偶者、子供、親、兄弟姉妹、その他がある。

# 給与所得者・雇用者全体のうち、年収200万円未満の割合の推移

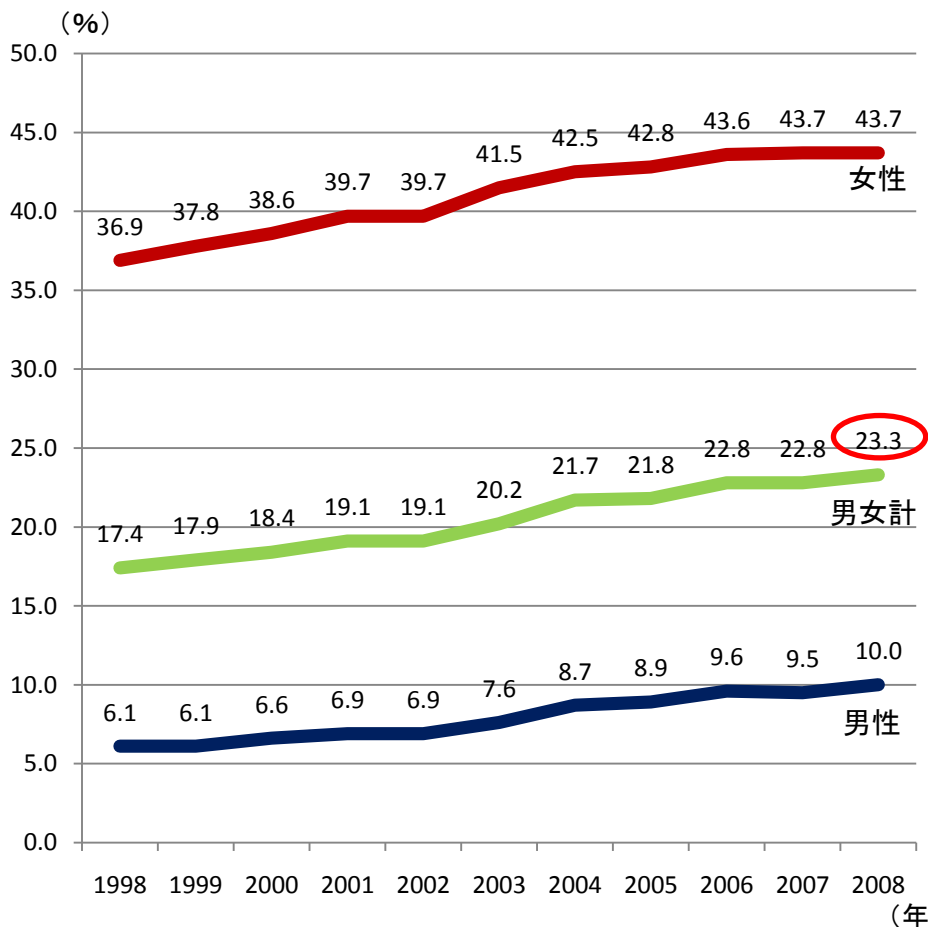
- ① 雇用者全体のうち、年収200万円未満労働者数及び割合は増加傾向にある。
- ② 年収200万未満の給与所得者の割合は毎年増加傾向にあり、2008年の男女計では全体の23.3%となっている。

## ①雇用者全体のうち、年収200万円未満労働者数及び割合の推移



(資料出所)総務省「就業構造基本調査」

## ②給与所得者のうち、年収200万円未満の割合の推移



※1年を通じて勤務した給与所得者のうちの、年収200万円未満の割合を示す。

(資料出所)国税庁「民間給与実態統計調査」